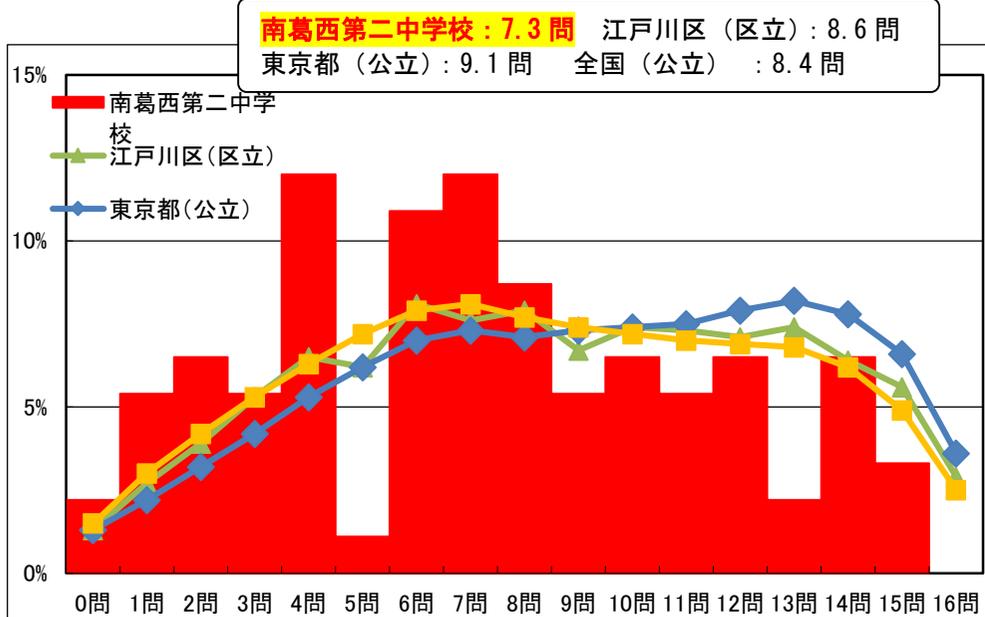


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【数学】 南葛西第二中学校

## 正答数分布

平均正答数

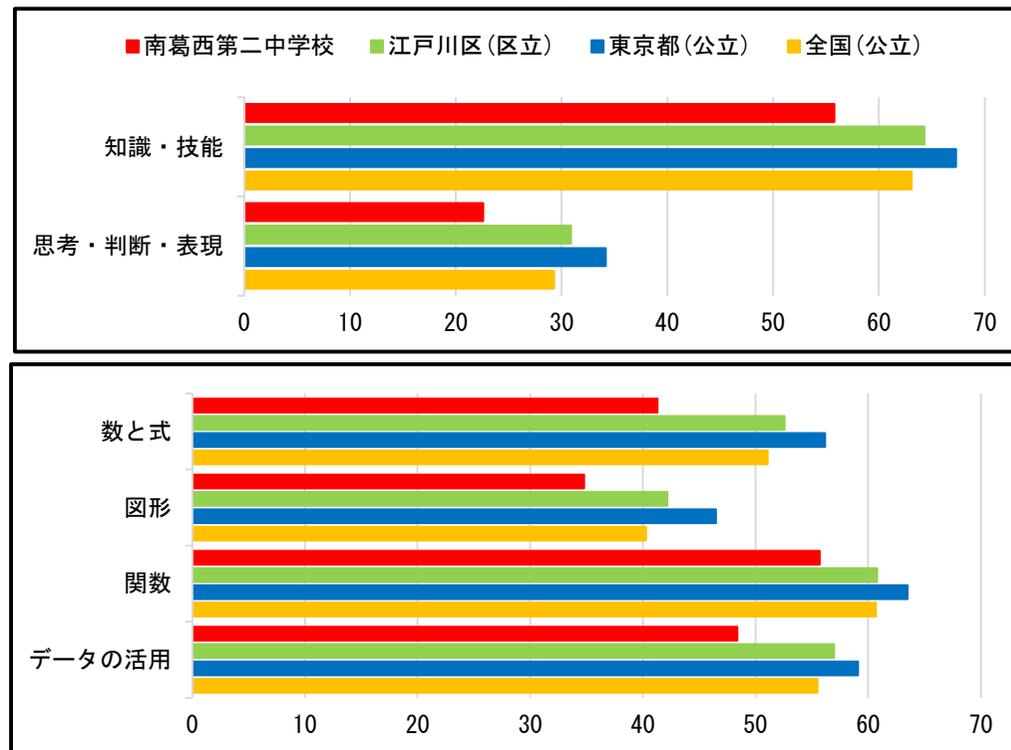


### <四分位における割合(都全体の四分位による)>

数 学	上 位 ← 下 位			
	A層 13~16問	B層 9~12問	C層 6~8問	D層 0~5問
南葛西第二中学校	9.8	20.6	26.1	43.5
江戸川区(区立)	22.3	28.5	23.6	25.6
東京都(公立)	26.2	30.1	21.4	22.3
全国(公立)	20.4	28.5	23.7	27.4

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、生徒数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【平均正答率の差】

南葛西第二中学校	45%
江戸川区(区立)	54%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	52.5%
都との差	12ポイント

%

### 【分析結果と授業改善に向けて】

学年全体のおよそ30%の正答数が4問以下、どの領域においても都平均より10~20ポイント下回っており、特に「数と式」が有意に正答率が低いことがこの結果からわかる。まずは正負の数や文字式の計算といった基礎・基本の内容の習熟に継続的に取り組んでいくことは言うまでもない。そしてその力が関数領域の向上へも波及することを目指していく。特に、問題を読み解く力を高める必要を感じるので、意識的に多く取り組ませていくことが大切である。